

okamura

OKAMURA REPORT

第90期 報告書

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日 | 証券コード：7994



株主の皆様へ

豊かな発想と確かな品質で、
人が生きる環境づくりを通して、
社会に貢献する。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社への格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

オカムラグループは、パーパスである「人が生きる社会の実現」に向け、「豊かな発想と確かな品質で、人が生きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとして、クオリティの高い製品とサービスを提供することに努めています。

「人が生きる社会の実現」に向けて重要課題を特定し、4つの分野で取り組みを推進しています。「責任ある企業活動」を経営基盤とし、「従業員の働きがいの追求」によって一人ひとりが働きがいを感じるとともに、「地球環境への取り組み」を実践することでサプライチェーン全体を通じて環境負荷を低減していきます。事業活動を通じて「人が生きる環境の創造」を実践することにより人が生きる社会の実現に貢献します。

当社グループでは、2024年3月期から2026年3月期までの3カ年を対象とする「中期経営計画2025」を策定しております。「新たな需要の創出」を目指して、時代の流れを捉え、提案力と製品力を磨き、「需要創出型企業」への変革を加速します。持続的な成長に向け、新たな需要の創出と変化に対応できる経営基盤強化を図るとともに、事業活動を通じた社会課題解決に取り組んでまいります。

企業価値のさらなる向上と社会課題の解決に取り組み、すべての人々が笑顔で生き活きと働き暮らせる社会の実現を目指します。



当社は2025年10月に創業80周年を迎えます。株主の皆様へ感謝の意を表するため、記念配当を実施することを決めました。皆様には、今後も一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

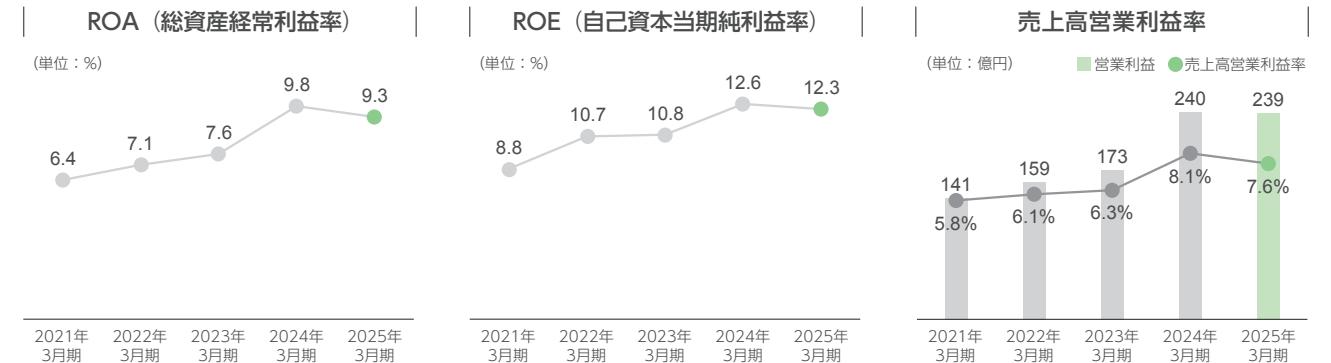
当期の概況について

当連結会計年度の国内経済は、ウクライナ・中東情勢を巡る地政学的リスク、中国経済の停滞長期化、金利ある世界への突入による資金調達コストの増加、諸資材・部品の価格や物流2024年問題による物流費の高騰、世界的な金融引き締めにもともなう金利・為替変動などにより、先行きが不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、コスト削減や価格転嫁の取り組みを推進するとともに、労働人口の減少など社会・市場の大きな変化を捉えた新たな需要の創出に注力してまいりました。また、当連結会計年度において、7.3%相当の賃上げを実施いたしました。物価上昇への対応に加え、優秀な人材の確保、働きがい改革の推進につなげることで、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が過去最高となりました。

決算ハイライト（連結）



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

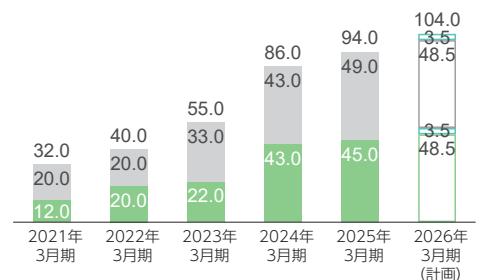
配当金についての基本方針

当社グループは、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付けております。利益配当政策につきましては、業績に応じた適正な利益配分を目指すとともに、財務状況、将来の事業展開及び内部留保などを総合的に勘案し、安定配当の維持にも努めてまいりたいと考えております。

配当金

第90期
期末
(年間94円)
49円

単位：円
■ 中間
■ 期末
□ 記念配当



事業別セグメント概況

▶ より詳細な決算情報は、右記の2次元バーコードよりアクセスいただき、当社IRトップページからご覧いただけます。



第90期 決算のポイント

オフィス環境事業は、リニューアル需要が旺盛に推移、売上高は過去最高となるも、販管費や連結子会社の完全子会社化にともなうのれん償却費の増加により利益は減少。

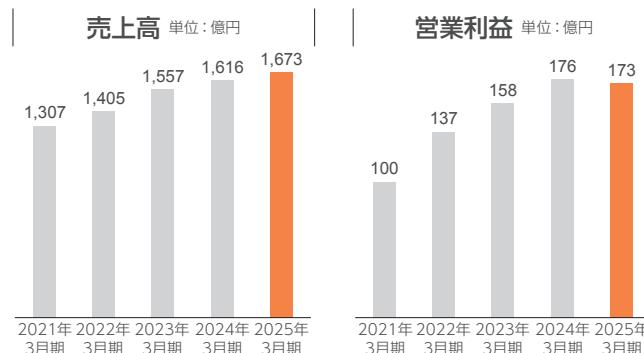
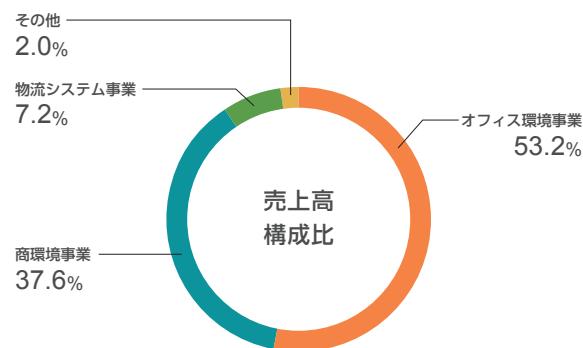
商環境事業は、店舗のリニューアル需要が堅調に推移し、売上高は過去最高となるも、来期以降の事業基盤強化に向けた固定費の増加があり利益は減少。

物流システム事業は、省人・省力化需要が旺盛に推移、一物件あたりの規模が拡大するなか需要の取り込みに成功、収益改善にも努め、売上高は過去最高、利益は大幅増。

事業別ハイライト

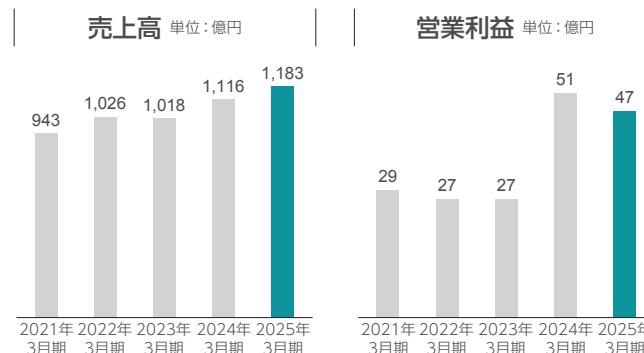
	売上高	営業利益	売上高構成比
■ オフィス環境事業	1,673億円	173億円	53.2%
■ 商環境事業	1,183億円	47億円	37.6%
■ 物流システム事業	225億円	16億円	7.2%
■ その他	62億円	1億円	2.0%

(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。



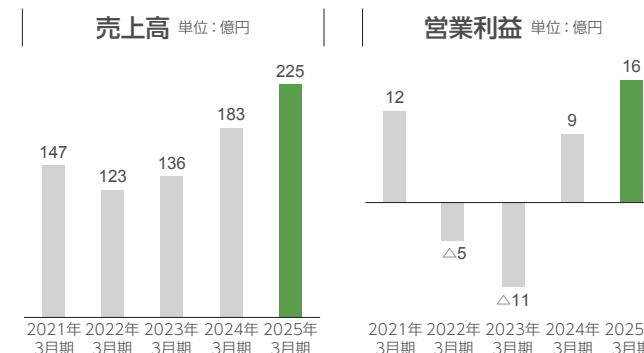
オフィス環境事業につきましては、人材確保やコミュニケーションの活性化などの経営課題解決に寄与する、「行きたくない」オフィスづくりへの関心は、全国に広まっており、その需要は旺盛に推移しております。このような状況のもと、当社の強みである未来の働き方の研究成果と時代の変化を先取りした製品開発、豊富な納入実績を通じた知見に基づく提案力により新たな需要を創出し、売上高、営業利益の拡大を目指してまいりました。これにより、売上高は過去最高となりましたが、人件費や物流コスト等の販管費の増加や連結子会社DB&B Holdings Pte. Ltd.の株式追加取得等にもなう過年度のれん償却額1,426百万円の計上等により、前連結会計年度に比べ、営業利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、167,397百万円（前期比3.5%増）、セグメント利益は、17,367百万円（前期比1.8%減）となりました。



商環境事業につきましては、食品を取り扱う業態間の競争や、インバウンド需要の回復、店舗内の人手不足による省力化製品の引合などを背景に、新規出店及び店舗改装の需要が堅調に推移いたしました。このような状況のもと、店舗什器、冷凍冷蔵ショーケースをはじめとした幅広い製品ラインナップに加え、店舗デザインや施工管理等を含む店舗づくりのトータルサポート体制を拡充し、当社の総合力を活かした提案により創出した需要を取り込んでまいりました。一方で、諸資材・部品の価格高騰の影響を受ける中、生産・物流コスト削減に注力するとともに、価格転嫁の浸透に努めてまいりました。これにより売上高は過去最高となりましたが、人件費をはじめとする販管費の増加等により営業利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、118,305百万円（前期比5.9%増）、セグメント利益は、4,792百万円（前期比7.4%減）となりました。



物流システム事業につきましては、省人・省力化ニーズを背景に、物流施設を中心に自動倉庫の需要は高水準で推移しております。一方で、世界的なサプライチェーンの混乱による諸資材・部品の調達難及び価格高騰が継続しております。このような状況のもと、優位性のある製品の強みを最大限に活かした積極的な提案活動を展開し、受注高は堅調に推移しており、当連結会計年度において複数の大型物件の売上を計上いたしました。また、生産・物流コストの削減や価格転嫁を進める等、収益の改善に努めてまいりました。これにより売上高は過去最高となり、営業利益は大幅に増加いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、22,599百万円（前期比22.9%増）、セグメント利益は、1,619百万円（前期比76.3%増）となりました。

特集 中期経営計画の進捗

中長期的な会社の経営戦略

■ 中期経営計画2025で目指すもの

新たな需要の創出 時代の流れを捉え、提案力と製品力を磨き、「需要創出型企業」への変革を加速する

経営基盤強化

人財育成と働きがいの向上

キャリア形成支援と
専門人財育成、
働きがい改革の推進

デジタル技術活用の加速

「経営」「事業」「業務」への
デジタル技術活用の加速と
DX人財育成

多品種変量生産への対応

環境の変化に対応する
生産システムの変革による
競争優位性の維持・強化

市場に根ざした海外事業の展開

M&A、現地有力パートナーとの
提携・合併による
地産地消型事業の展開

社会課題への取り組み

事業を通じた社会課題への継続的な取り組みと
2050年カーボンニュートラル実現に向けた地球環境への長期的取り組みの着実な実行

■ 定量目標 (2026年3月期)

売上高	営業利益	営業利益率	ROE
3,300億円 (2025年5月9日に上方修正 修正前3,250億円以上)	270億円	8.2%	10.0%

▶ 須坂工場の稼働開始

長野県須坂市の須坂工場が2024年12月に竣工し、2025年1月より冷凍冷蔵ショーケースを製造する工場として稼働を開始しました。



▶ Boss Design Limitedを完全子会社化

経営基盤強化の一つである「市場に根ざした海外事業の展開」として、現地の有力事業パートナーとの提携・合併及びM&Aを通じ、地産地消型の事業拡大に取り組んでいます。

2025年4月に、Boss Design Limited社（本社：英国以下、BDL社）の発行済株式の100%を取得し、完全子会社化しました。

BDL社は、1983年に設立され英国に本社を置く、細部までこだわった高品質で革新的なデザインのオフィス家具メーカーです。現代的な英国の洗練された優雅さ、先進的なデザイン、最先端の製造プロセスをいち早く採用していることで知られており、テクノロジーと伝統的な技術を融合し、細部まで丁寧に作り上げられた高品質な家具を製作しています。ラウンジシーティング、チェア、テーブル、ワークブース、収納など、幅広い家具を英国・欧州及び米国市場を中心にオフィスや商業空間に提供しています。

boss



下半期事業トピックス (2024年10月~2025年3月)

10月

- 店舗において商品陳列から在庫管理、品出し、備品管理まで1台4役で使用できる多目的カート「Shelfer (シェルファー)」を発売 **P12**
- 「DESIGNART TOKYO 2024」出展
- 「オカムラグループ 統合報告書2024」を発行

11月

- **「オカムラブランドフェア2025」開催**
 - ー ワークブース「TELECUBE by OKAMURA」シリーズの4~6人で使用できる多人数用を発売
 - ー ラウンジテーブル「Symphonia (シンフォニア)」を発売 **P11**
 - ー ソファシリーズ「CLARK (クラーク)」を発売 **P11**
- ワーカーの成長とオフィス環境の関連性についての調査・研究データを公開
- サステナブルな製品開発を加速させる考え方「カーボンニュートラルデザイン」を策定 **P7**
- 「第26回 不動産ソリューションフェア」出展
- 子ども向け学習家具「mirumio (ミルミオ)」を発表 **P11**
- コワーキングスペース「point 0 marunouchi」のWELL認証が最高ランク「プラチナ」にて更新

12月

- 日本の「はたらく」を取り巻くトレンド「はたらく方のトレンド 2025」を発表
- オフィススタイル診断サイト「OFFICE KIT (オフィス キット)」をウェブサイトにて公開 **P12 TOPICS 01**

1月

- オカムラが運営するメタバース用の企業公式3Dデータ販売サイト「RoomieTale (ルーミーテイル)」にて、他社メーカーの公式3Dデータの取り扱いを開始

2月

- **「第59回スーパーマーケット・トレードショー2025」出展**
 - 物流自動化ソリューションの事業化の加速に向けて、オカムラとモーションリブが資本業務提携 **P12 TOPICS 02**
 - 中高生向け探究学習プログラム「クエストエデュケーション」の企業探究コース「コーポレートアクセス」に参画
 - 日立製作所の「Hitachi Digital Solution for Logistics」を活用し、オフィス家具の配送業務の効率化に向けた共創を開始 **P7**

3月

- オフィスレイアウト自動生成システムを開発し、オフィスの初期設計における試験的な使用を実施 **P7**
- Boss Design Limitedの完全子会社化を決定 **P6**

TOPICS
1

「オカムラブランドフェア2025」開催

ガーデンコートショールームにて完全招待制で開催。オフィスへの出社が増えている中、オフィスに集まるからこそ生み出される価値を「組織を強くすること」と考え、「集うだけがオフィスの価値か。」をテーマに、組織を強くするための環境づくりを提案しました。社内外のコミュニケーションを促進するラウンジファニチュアや製品開発におけるサステナビリティの新たな考え方などを発表・展示しました。



TOPICS
2

「第59回スーパーマーケット・トレードショー2025」出展

2025年2月12~14日に幕張メッセで開催。「次のパフォーマンスを發明しよう」をテーマに、買い物しやすく働きやすい売場づくりを実現するため、コストパフォーマンスやタイムパフォーマンスなどさまざまなパフォーマンスから考察した製品とサービスを紹介しました。クラウドを利用した店舗管理システムやデジタルサイネージ、3Dによる店舗設計やロボットを活用したお店づくりなどを提案しました。



\\ さまざまなデザイン賞を受賞 /

- 2024年度グッドデザイン賞 (10月)
クリエイティブファニチュア「WORK ISLE (ワークアイル)」、電動昇降デスク「Swift Nex (スイフト ネックス)」、ラック作業台「CROSCO (クロスコ)」
- German Design Award 2025 (11月)
シーティング「Spher (スフィア)」、「Spectra (スペクトラ)」、[NeoCon 2024] のオカムラ展示
- JIDAデザインミュージアムセレクションvol.26選定 (11月)
クリエイティブファニチュア「WORK ISLE」
- Best of Year Awards 2024入賞 (Honoree) (12月)
シーティング「Spectra」
- iF DESIGN AWARD 2025 (2025年3月)
[NeoCon 2024] のオカムラ展示



GOOD DESIGN
AWARD 2024



JIDA
DESIGN
MUSEUM



GERMAN
DESIGN
AWARD
WINNER
2025



iF
DESIGN
AWARD
2025

オカムラの新製品&サービス情報



関係性構築のきっかけとなる新たな交流を促すラウンジファニチュア

ラウンジテーブル「Symphonia (シンフォニア)」、ソファシリーズ「CLARK (クラーク)」

多様な仕事を最適に行うためにワーカーが選択できる空間の一つとして、社内外の人とオープンに交流するラウンジスペースを提案しています。ラウンジスペースには、空間の象徴となる存在感のある家具が置かれることが多く、人が自然と集まる役割を果たします。ラウンジテーブル「シンフォニア」は、曲面を取り入れた脚が存在感を放ち、象徴的な存在として空間全体と調和します。リーフ形の天板は、自然と互い違いに座るようにデザインしており、関係の浅い人ともテーブルを共用しやすく気軽な交流を誘発します。ソファシリーズ「クラーク」は、空間の象徴となるような多様なレイアウトが可能で、ラウンジスペースやレセプション、ロビーなどさまざまな空間に導入できます。柔らかさと気高さを兼ね備えたデザインで空間を上質に仕立てます。



詳細



詳細



子ども向け学習家具

「mirumio (ミルミオ)」



詳細



近年、デジタル機器の進化やコロナ禍による運動習慣の減少にともなって猫背やスマホ首といった姿勢の悪い子どもたちが増えており、学習家具の機能や快適性にも注目が高まっています。「ミルミオ」は、「子どもの成長に合わせて、家具も成長する」をテーマに、小学生から高校生まで長く使うことを想定したデスクとチェアです。成長する子どもの身体に合わせて簡単にデスクの高さやチェアの調節ができ、人間工学に基づいた好ましい学習姿勢をアシストします。大人になっても使えるようインテリアになじむシンプルなデザインが特徴です。



店舗用多目的カート

「Shelfer (シェルファー)」



「シェルファー」は、スーパーマーケットやドラッグストアなどの売り場での商品陳列や品出し、バックヤードでの商品の在庫管理や備品管理などさまざまな作業に対応でき、1台で4役を担う多目的カートです。 Gondola (店舗の陳列棚) の豊富なアタッチメントが活用できるため、さまざまな商品を Gondola のように陳列することが可能です。ブラックで統一したスマートなデザインで、売り場で品出し作業や商品陳列を行っても雰囲気を損ないません。また、使用していない Gondola のアタッチメントを整理整頓して保管することも可能です。さまざまな用途に展開でき、効率的で魅力ある店舗づくりに貢献します。

TOPICS 01

オフィススタイル診断サイト「OFFICE KIT (オフィス キット)」をウェブサイトにて公開

「OFFICE KIT」は、新しいオフィスをつくりたい企業が企画段階で自分たちにふさわしい働き方やオフィス空間を検討するためのサポートツールです。実現したいことや理想のオフィスを選択すると、「OFFICE KIT」が最適なオフィススタイルを診断し、働き方や空間、アイテムの活用例を紹介します。診断には、約40年のオフィス研究で培われたオカムラの知見をもとにした最新のデータやトレンドが反映されています。

詳細



TOPICS 02

物流自動化ソリューションの事業化の加速に向けて、オカムラとモーションリブが資本業務提携

オカムラが事業化を進めている自律・遠隔操作ハイブリッド型ロボットによる物流自動化ソリューション「PROGRESS ONE (プログレスワン)」において、モーションリブ株式会社の力触覚制御技術 (リアルハプティクス®) を活用し、物流現場での自動化・省力化の実現とともに、時間や場所の制約にとらわれない新しい働き方や新しい価値を共創していくことを目的に、2025年2月に資本業務提携契約を締結しました。

とらのあな ロジスティクスセンター

オートストア
「AutoStore」で生産性の向上、保管面積の縮小、24時間稼働を実現
お客様のビジネス成長をサポート

マンガやアニメ・同人誌、キャラクターグッズなどの委託流通販売事業を手掛ける株式会社虎の穴様は、コロナ禍の通販の急激な需要増に対応するため、物流センター「とらのあなロジスティクスセンター（TLC）」を八千代に移転しました。従来の倉庫は多層階での運用で、生産効率や商品稼働の無駄が多く、また24時間稼働を行う中で人手確保が難しいことが課題でした。これらの課題に対応するため、自動化設備の導入を検討され、「AutoStore」を導入いただきました。

天井までの縦空間を有効活用した「AutoStore」の高密度保管により、約500坪のスペースに約5万種類、200万部の書籍を保管。さらに、倉庫面積も旧センターの5,500坪からワンフロア3,500坪に縮小しました。ワークステーションでピッキング作業が完結するため、スタッフの作業負担が軽減でき、一人あたりのピッキング作業効率も1.6倍に向上しました。発送件数の約7割を「AutoStore」で処理できるため、人的作業の標準化と生産性の向上を実現でき、24時間稼働体制や繁忙期でも安定したオペレーションが可能になりました。



TLCのロボット自動倉庫「AutoStore」では42台のロボットが稼働しています。多品種・小ロットという物流条件に合わせて高さが低いビン（コンテナ）を採用し、約500坪に42,080ビンを格納しました。



ポート（ワークステーション）でのピッキング作業により、歩く・探す・かがむといった作業負担を削減しました。

DATA

名称 とらのあなロジスティクスセンター（TLC）
所在地 千葉県八千代市保品1809-1
プロロジスパーク八千代1 2F

会社情報（2025年3月31日現在）

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	100,621,021株
株主数	36,010名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,087	12.75
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,335	6.68
オカムラグループ従業員持株会	5,572	5.88
日本製鉄株式会社	5,313	5.60
明治安田生命保険相互会社	4,892	5.16
株式会社三菱UFJ銀行	4,010	4.23
オカムラ協会の持株会	3,659	3.86
株式会社横浜銀行	2,853	3.01
三井住友海上火災保険株式会社	2,429	2.56
オカムラディーラー共栄会	1,776	1.87

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(5,784,709株)を控除して計算しております。

会社概要

設立	1946年7月
資本金	186億円
登記上本社	横浜市西区北幸二丁目7番18号
本社事務所	横浜市西区北幸一丁目4番1号
従業員数	4,158名

取締役及び監査役（2025年6月25日現在）

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役(社長執行役員)	中村 雅行	
取締役(専務執行役員)	河野 直木	オフィス環境事業本部長 兼 開発創造本部長
取締役(専務執行役員)	佐藤 喜一	コーポレート 経営企画本部長 兼 HR本部長
取締役(常務執行役員)	荒川 和巳	生産本部長
取締役(常務執行役員)	酒徳 真司	商環境事業本部長
取締役(執行役員)	福田 栄	コーポレート 経理本部長
取締役(社外)	伊藤 裕慶	
取締役(社外)	狩野 麻里	東京製鋼株式会社取締役
取締役(社外)	上條 努	大成建設株式会社取締役
取締役(社外)	菊地 美佐子	株式会社コメリ取締役
取締役(社外)	水本 伸子	株式会社ヤマシタ取締役監査等委員
取締役(社外)	丹保 人重	株式会社アイックコーポレーション社外取締役
監査役	永井 則幸	
監査役	萩原 圭一	
監査役(社外)	岸上 恵子	公認会計士
監査役(社外)	宮崎 信太郎	弁護士

執行役員（2025年6月25日現在）

地位	氏名	担当
常務執行役員	田尻 誠	物流システム事業本部長
上席執行役員	大野 嘉人	海外営業本部長
上席執行役員	佐藤 春徳	オフィス環境事業本部 営業本部長
執行役員	近藤 岳文	施設環境ソリューション事業部長
執行役員	有吉 真二	オフィス環境事業本部 営業本部 関西支社長
執行役員	寺西 郁	商環境事業本部 営業本部長
執行役員	加藤 達也	生産本部 第二事業部長
執行役員	菱沼 博幸	生産本部 第一事業部長 兼 追浜事業所長
執行役員	眞田 弘行	技術本部長
執行役員	田口 義規	オフィス環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長
執行役員	松山 史剛	商環境事業本部 リテール・ソリューション本部長
執行役員	松本 英明	商環境事業本部 営業本部 西日本営業本部長
執行役員	木村 浩一	商環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長
執行役員	碓山 友和	オフィス環境事業本部 営業本部 働き方コンサルティング事業部長



トピックス

「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」に出展

「2025年日本国際博覧会」に催事と展示を出展しました。オカムラの出展テーマは「EXPO 2025 OKAMURA Challenge 人が生きる社会へ、自分を解き放て!」。演じる全員が「主役」で「自分役」、未来の自分に働きかけるドラマを創るオカムラ社員による劇団「ザ・オカムラ座」の公演（4/26 昼夜2回公演）と、伝えたかった素直なキモチを交換できる7日間限定のお店「キモチキオスク」の体験展示（4/22～28）を行いました。劇団「ザ・オカムラ座」の公演は、昼夜公演合わせて約700名の方に観劇いただき、「キモチキオスク」の展示は7日間で約3,000組（約7,000名）に体験いただくなど、万博の来場者にオカムラを知っていただく機会となりました。



「ザ・オカムラ座」の公演

詳しく読みたい方はこちら

オカムラライブスマイル 大阪・関西万博関連記事

<https://live.okamura.co.jp/tag/id78>



「人が生きる」を考えるメディア「Okamura Live :) (オカムラライブスマイル)」では、オカムラの人や仕事、挑戦などさまざまな取り組みを紹介しています。

オカムラウェブサイトIR情報ページのご案内

決算情報をはじめ、最新の事業動向をご覧ください。

<https://ir.okamura.co.jp/>



株主メモ

決算期	3月31日	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	6月下旬	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	3月31日		
公告掲載新聞	日本経済新聞		
株主名簿管理人／ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		

(ご注意) 株式に関する手続きのお届出先・ご照会先について

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、口座を開設された証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記、特別口座の口座管理機関の連絡先にお問い合わせください。

人を想い、場を創る。
okamura

株式会社オカムラ
〒220-0004 横浜市西区北幸二丁目7番18号
TEL : 045-319-3401 (代)

